

安全データシート

作成日 2019 年 7 月 10 日

改訂日 2022 年 4 月 1 日

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質の名称

製品名 松脂（ロジン）

会社名 東工業株式会社

住所 埼玉県八潮市木曾根 7 4 4

担当部門 八潮工場

住所 埼玉県八潮市木曾根 7 4 4

電話 048-996-9235

F A X 048-997-2597

原料名 中国ガムロジン X

製造社名 アイレック株式会社

住所 島根県出雲市長浜町 5 1 6 - 5 7

2. 危険有害性の要約

G H S 分類

物理化学的危険性

火薬類	分類対象外
可燃性・引火性ガス	分類対象外
可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
支燃性・酸化性ガス類	分類対象外
高圧ガス	分類対象外
引火性液体	分類対象外
可燃性固体	分類できない
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	分類できない
自然発火性固体	分類できない
自然発熱性化学品	分類できない

健康有害性	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機化合物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
	急性毒性（経口）	区分外
	急性毒性（経皮）	区分外
	急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	区分4
	皮膚腐食性・刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2B
	呼吸器感作性	区分1
	皮膚感作性	区分1
	生殖細胞変異原性	区分外
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	分類できない
環境有害性	吸引性呼吸器有害性	分類できない
	水生環境有害性（急性）	区分2
	水生環境有害性（慢性）	区分2

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

吸入すると有害

眼刺激

吸入するとアレルギー、喘息または、呼吸困難を起こすおそれ

アレルギー性皮膚炎を起こすおそれ

水生生物に毒性

長期的影響により水生生物に毒性

注意書き

【安全対策】

- 粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーの吸入を避けること。
- 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- 取扱い後はよく手を洗うこと。
- 換気が十分でない場合には、適切な呼吸用保護具を着用すること。
- 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- 適切な保護手袋を着用すること。
- 環境への放出を避けること。

【応急処置】

- 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 吸入した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 眼に入った場合、眼の刺激が続く時は、医師の診断手当てを受けること。
- 吸入した場合、呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
- 皮膚に付着した場合、皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断手当てを受けること。
- 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
- 漏出物を回収すること。

【保管】

- 直射日光、高温、多湿を避け、冷暗所に保管する。

【廃棄】

- 内容や容器は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄委物処理業者に委託するなど、適切に廃棄すること。

3.組成、成分情報

化学名又は一般名	ロジン (R o s i n)
別名	Colophony、Tricyclic Monocarboxylic Acids
成分及び含有量	100%
化学式または構造式	特定できない。

CAS No	8050-09-7
官報公示番号（化審・安衛）	ガムロジン、ウッドロジンは天然物で対象外
EINECS No	232-475-7
TSCA	R o s i n

4.応急処置

吸入した場合

吸入した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。

吸入した場合、呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。

皮膚に付着した場合、皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断手当てを受けること。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

眼に入った場合

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼に入った場合、眼の刺激が続く時は、医師の診断手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

予想される急性症状及び遅発性症状

喘鳴

最も重要な兆候及び症状

吸入するとアレルギー、喘息または呼吸困難を起こすおそれがある。

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれがある。

応急措置をする者の保護

データなし

医師に対する特別注意事項

呼吸器症状を経験した場合：毒物センターまたは医師の診断を受ける。

5.火災時の措置

消化剤 水噴霧、泡消火剤、粉末消化剤、炭酸ガス、乾燥砂類

使ってはならない消化剤

棒状放水

特有の危険有害性

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

安全に対処できるならば着火源を除去すること。

消火を行う者の保護

適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

6.漏出時の措置

環境に対する注意事項

環境への放出を避けること。

漏出物を回収すること。

除去方法

漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。

水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。

7.取扱及び保管上の注意

屋外または換気の良い場所でのみ使用すること

保護手袋、保護衣、保護メガネ、保護マスクを着用すること。

換気の良い場所で保管すること。

8.暴露防止及び保護措置

管理濃度 設定されていない。

設備対策 貯蔵ないし取り扱う作業場には洗眼器とシャワーを設置すること。

取扱いについては全体換気装置を設置した場所で行う。

粉じんが発生する場合は、局所排気装置を設置する。

保護具 マスク、保護手袋、保護メガネ、保護マスク

衛生対策 汚染した衣類は再使用する場合には洗濯すること。

9.物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色 黄色透明の固体、粉末は白色

臭い 特有の臭気

pH データなし

融点・凝固点 70～80℃（軟化点）

比重（相対密度） 1.07（20℃）【比重】

溶解度 水に不溶

アルコール、ベンゼン、エーテル、氷酢酸、二硫化炭素に易溶

10.安定性及び反応性

安定性 通常の手扱い条件においては安定。

加熱すると分解し、刺激性ヒュームを生じる。

粉末又は顆粒状で空気と混合すると粉塵爆発の可能性がある。

危険有害反応可能性 情報なし

避けるべき条件	加熱、粉じんの拡散
混触危険物	強酸化剤
危険有害な分解生成物	

燃焼すると、一酸化炭素、ホルムアルデヒドなど有害なガスを生成する。

11.有害性情報

急性毒性【経口】

ラット LD50 値：7800mg/kg、8400 mg/kg及び 7600 mg/kgに基づき、区分外とした。

【経皮】

ウサギ LD50 値：薬 2500 mg/kg及び>2500 mg/kg (IUCLID2000) に基づき、約 2500 mg/kgを採用して区分=5 とした。

「皮膚に接触すると有害のおそれ」

【吸入】(粉じん)

ラット LC50 (6時間) 値：薬 1.5 mg/L (4時間換算値：約 2.3 mg/L) に基づき、区分=4 とした。

「吸入すると有害」

皮膚腐食性/刺激性

IUCLID (2000) のラットを用いた皮膚刺激性試験において軽度刺激性であったとの記述から、区分=3 とした。

「軽度の皮膚刺激」

眼に対する重篤な損傷/刺激性

IUCLID (2000) のラットを用いた眼刺激性試験において軽度の刺激性であったとの記述から、区分=2B とした。

「眼刺激」

呼吸器感作性又は皮膚感作性

【呼吸器感作性】

日本職業・環境アレルギー学会で感作性物質にリストアップされていることから、区分=1 とした。

なお、日本産業衛生学会では気道感作性物質第1群に分類されている。

「吸入するとアレルギー、喘息又は呼吸困難をおこすおそれ」

【皮膚感作性】

日本接触皮膚炎学会でロジンを経皮感作性物質に分類しているほか、ACGIH で SEN、日本産業衛生学会で皮膚感作性物質第1群、DFG で S h に分類されており、アレルギー性接触皮膚炎の症例報告があることから、区分=1 とした。

生殖細胞変異原性

マウスに経口投与後の骨髄を用いた小核試験（体細胞in vivo 変異原性試験）で陰性結果に基づき区分外とした。

なお、in vitro 試験では、細菌を用いた復帰突然変異試験と哺乳類培養細胞（CHL/IU）を用いた染色体異常試験の結果が報告されているが、いずれも陰性である。

発がん性 データなし

生殖毒性 データなし

特定標的臓器・全身毒性 データなし

（単回曝露） データなし

特定標的臓器・全身毒性

（反復曝露） ラットに90日間混餌投与により、飼料中濃度0.5%（約239～282 mg/kg/day）では、血液あるいは血液化学など一部の検査項目で変化が認められたものの、病理組織学的毒性変化はなく、重大な毒性影響の記述はない。

したがって、本試験の結果から経口投与では区分外に該当するが、他経路のデータがないため、「分類できない」とする。

吸引性呼吸器有害性 データなし

12.環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性（急性）

甲殻類（オオミジンコ）の48時間EC50=4.5 mg/Lから、区分=2とした。

「水生生物に毒性」

水生環境有害性（慢性）

急性毒性が区分=2、急速な分解性がなく、生物蓄積性が不明であることから、区分2とした。

「長期的影響により水生生物に毒性」

13.廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合は、そこに委託して処理する。

廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分に告知のうえ処理を委託する。

汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14.輸送上の注意

重要事項：輸送に関する記載事項は輸送方法、量、梱包サイズ、および/または輸出元と輸出先により異なる場合があります。

利用者各位の特定条件に関する情報につきましては国内の危険有害性物質/危険物の専門家までご相談ください。

IMDG 国際海上危険物規則 クラス (Class) 規制されていない

IATA クラス (Class) 規制されていない

15.適用法令

化学物質管理促進法 (PRTR 法) 該当しない

消防法 9条の4 施行令 別表 第4 指定可燃物 合成樹脂類(その他の物)
3000 kg

労働安全衛生法 (MSDS 対象)

名称等を通知すべき有害物

(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)

(政令番号 第632号)

16.その他の情報

引用文献等 国際化学物質安全性カード ICSC No.0358 2004.4月

独立行政法人 製品評価技術基盤機構の「化学物質総合検索システム」
中央労働災害防止協会 JISHA 安全衛生情報センター

本データシートは、化学製品の工業的な一般的取扱いに際し、安全な取扱いに関する最新の情報を集めたものですが、万全ではありません。

新たな情報を入手した場合には、予告なしに改訂する場合がありますのでご了承ください。

他の化学物質を混合したり、特殊な条件で使用するときは、安全性の評価を行った後に使用してください。

本データシートの含有量、物理的、化学的性質に関する値は保証値ではありませんのでご了承ください。